

六条瓦版

田んぼダム

保水能力に長けた水田の活用

近年の気候変動の影響で、大規模水害が頻発する中、水田の持つ雨水貯留機能が再度注目されはじめています。

この雨水貯留機能を利用する田んぼダムに取組むことで、排水路などの排水施設の負担が軽減することは、各研究機関の検証により明確にされています。

排水口に排水量をしぼる板を設置して、田んぼに降った雨をゆっくり水路に流すというものです。そのため、排水口対岸の法面を削ることも防げます。

ある町内で、土地改良に携わる方から『田んぼダム』についての説明がありましたが、資料を配付する程度に留まったため、今一度、この田んぼダムについて深掘りします。

田んぼダムとは、田んぼが持つ雨水貯留機能を利用して、大雨時に排水路に流れる水の量を抑制する取組のことです。このことは、基盤整備をする段階から田んぼは保水能力があるので、降雨時には落水しないようにと言われてきましたが、時代が進むと忘れ去られて

番外
発行所
パソコンクラブ
編集 広報部
発行 不定期
適時無料配布



た雨水を一時的に貯蔵する取組です。用水路や河川から水田に水を引き入れるものではありません。

3. 作物の生産に影響を与えない範囲で行う取り組みです。

田んぼダムは稲などの生産に影響を与えない範囲で、**農業者の協力を得て**実施する取組です。農作業への影響や取組の労力を最小限にするための工夫が欠かせません。

田んぼダムは、その目新しさでネーミングから効果ばかりに目が行きがちなのも事実であり、多くの取組が導入から数年経つと実施率が下がってしまうのが、田んぼダム最大の課題です。

上流で取り組むほど効果があり、その効果は下流ほど発現されるのですが、実施者と受益者が必ずしも一致しない点が続かない理由の一つでもあります。

1. 「取組」であって「施設」ではありません。

田んぼダムは、水田の排水溝に調整板などを設置する『取組』であって、ダムや遊水池の様な『設置』では有りません。

2. 水田に降った雨水を貯蔵する取組

田んぼダムは、水田に降った

しになってしまいます。
・また、近くの住宅地には農家にとって一番近い消費者がいるはず。そうした消費者や地域を浸水から守ることにあります。田んぼダムが地域の助け合いの側面も持っています。

そこで、農水省は田んぼダムなど農地の整備に関して**多くの支援メニュー**を用意していますが、個々の農家が申請して受けられるものではありません。

地域全体の取り組みとして事業が採択される必要があり、そのためには自治体との調整や地域内での話し合いは欠かせません。

まず田んぼダムの導入にあたっては、**農地耕作条件改善事業が活用**できます。

導入するかどうかの地域の話し合いや調査、広報に対しても支援もあります。

また、導入に必要な畦畔や排水路の整備についても支援が受けられます。←「多面的機能支払交付金」

地域全体で行う畦の補修や堰板の設置など、田んぼダムの取り組みに必要な活動にも、この交付金は活用できます。さらに、地域の5割以上の田んぼで田んぼダムに取り組めば、交付金の

<事業イメージ>



6. 多面的機能支払交付金の活用が鍵となります。

田んぼダムの取組は、地域全体で考えるべきものです。土地改良区の役員は、汗をかかへばいいと思います。ただ漫然と短絡的な説明をして、納得を得ようとしても、前に進めません。

下流域のことを考え、使える補助金の獲得に奔走して初めて成しうる取組だと思えます。

単なる排水溝の調整板設置(負担なし)だけに終わらないよう祈りたいものです。



- 1. 田んぼの主目的は**米**を作ることに
- 2. 田んぼダムに於いて最も重要施設は**水田の畦**
- 3. 目的を共有しなくても良い。田んぼダムは**結果が全て**
- 4. 行政や土地改良区の**支援が不可欠**
- 5. 農家の田んぼダムの**実施の可否を判断しない**